

平成22年度学校自己評価表

長野県松本筑摩高等学校定時制課程午前部午後部

I 教育目標

学校教育方針	中・長期目標
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨 を目的とする。	「心あらたな学び直し」 「限られた時間を活かしての学び」 「働きながらの学び」 を願う人々の要望に応える教育活動を展開すること。

午前部午後部教育目標	中・長期目標
定時制の特色と単位制の趣旨とを活かして、様々な「学び直し」を願い、未来を拓こうとする生徒・保護者に添うとともに、地域に開かれた教育を行う。	定時制の特性を活かした単位制の充実を図るとともに、様々な実態把握に努めながら、生徒が個に応じた学力と社会的習慣とを身につけ、よりよい学校生活を送れるようにする。

II 今年度重点目標に対する成果と今後の課題・改善策

評価値はA(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
1. 生徒一人ひとりの資質・能力の伸長 2. 他を思いやる豊かな心の育成 3. 社会力の育成 4. 基礎学力定着のための授業改善 5. 教育課程の工夫・改善 6. 特別支援教育の充実	B	新体制以降後4年目を迎えての総括、及び新課程適用への具体的検討開始という時機に当たり、生徒・保護者の願いや社会情勢の変化等に関連させながら、さらに新たなビジョンを模索する必要がある。一部は既に動き始めているが、来年度も引き続き、根本的なところからの議論や検討が求められる。

III 今年度の成果と今後の課題・改善策

評価値はA(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

	評価項目(重点目標)	評価の観点(到達目標)	評価	成果と今後の課題・改善策
教育課程	○開講科目の充実	・工夫・改善に努め、生徒・保護者の願いを踏まえた講座の設定、および編成ができたか。	A	新課程の研究を通じて、生徒の実態や希望を踏まえ、適用後の開講科目の検討にも努めた。
学習指導	○基礎・基本の定着	・可能な限りの教科・講座で習熟度別授業を展開するなどして、基礎学力の定着に向けた指導ができたか。 ・生徒による授業評価を活用し、授業改善ができたか。	A	昨年までの必修科目における合計42に加え、選択科目でも8の習熟度別講座編成を行った。 生徒による授業評価を行い、その結果をグラフ化した。
	○個に即した指導	・必要とする学力を個に即して着けようとする指導ができたか。	B	新体制以降後4年を数えるが、生徒数の急増と多様化に伴う時間割の複雑化により、生徒の個別指導の時間確保が難しくなりつつある。

生徒指導	○目指す人間像を共有した指導	・全校集会や保護者向け通信を通じて、「他人を想像する心」の自覚が高まる事前指導が充実したか。	A	総合学習・全校集会・保護者向け通信(12号発行)の発行と、年次会での情報交換などで、職員相互の連携が深まり事前指導が充実した。具体策を持って臨みたい。 相談室、保健室を通じて外部専門家との具体的連携ができた。
	○一人の生徒に複数の教師の目を向ける指導	・年次会・職員相互で連携できたか。 ・不登校生徒などへの対応では、外部専門家などと連携できたか。	A	
	○整理整頓	・貴重品など、私物を自己管理する習慣がついたか。	B	
特別支援教育	○発達障害支援専門員との連携	・支援を必要とする生徒の実態把握、保護者との共通理解、学習支援、進路相談等に専門員の指導・助言を活用できたか。	A	専門員が週2日相談室に常駐し、生徒や保護者とタイムリーに面談ができ、外部専門機関との連携もスムーズに行えた。具体的な言葉がけやSSTの授業の導入などに効果が上がった。
	○特別支援のハンドブックの活用	・本校独自のハンドブックやシリーズ第3集を活用しながら、個別の支援計画を作成し、チームでの支援ができたか。	B	教科担任等がチームで生徒のアセスメントを行い、個別の指導計画を立て前期で見直し後期へつなげた。支援の効果はまだ不十分だが、生徒は1年でそれぞれ成長した姿を見せている。
	○職員研修の企画・実施	・発達障害や特別支援教育に関する研修で、支援に活かせる知識・理解を深め、教職員が共通理解のもとに生徒にあてられたか。	B	専門員による定期的な職員研修が企画でき、具体的な生徒の姿で互いの疑問や実践を語り合うことができた。より参加者が増えるよう今後も日程や内容を工夫していきたい。
	○コーディネーター養成研修	・年3回の養成研修講座に課題をもって参加し、全職員へ報告できたか。	A	専門家でない同僚の職員が、パワーポイントを駆使し、大変わかりやすく楽しく学べる職員研修の講師となったことがすばらしかった。
進路指導	○望ましい職業観・勤労観の育成と進路意識の高揚	・卒業までを見通した進路ガイダンスを充実させることができたか。 ・進路希望を実現させるための科目選択や履修指導ができたか。 ・面談、適性検査を通して職業選択できる指導ができたか。	B	ガイダンスを多く実施した。進路実現のための学力向上をはかる。学校全体でキャリア教育のありかたを考えた。
	○進学指導の充実	・定時制ハンドブックを使い、LHRや年次別ガイダンスを充実させ指導できたか。 ・進路指導室の各種情報誌・情報端末利用、説明会などで生徒ひとりひとりに行き届いた指導ができたか。	B	進学に関する資料を充実させた。推薦入学に対する準備(小論文・面接)をしつかりさせた。

	○就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学習やホームルームの進路学習の時間を有効に使用し、各自の進路に対する意識を高めることができたか。 ・進路実現にむけ適宜、講習、補習、面接指導ができたか。 	A	雇用環境が悪化しているなか、就職指導に一層の努力が求められる。就職活動支援員の制度を十分活用した。
生徒会活動	○委員会活動の充実	・より多くの生徒が委員会活動に加わることができたか。委員会への出席率が高められたか。	B	生徒全員が委員会に所属するようになりたい。委員会では出席をとり参加を促し、出席率はよくなった。文化祭の仕事分担を、委員会中心に取り組み、委員会の活動を活発化した。
	○部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が部活動に加わることができたか。部活動への加入がすすめられたか。 ・長い見通しに立って部活動のあり方を検討できたか。 	A	ガイダンスで、映像を使い部活の勧誘を行った。軟式野球・卓球・剣道・バドミントン・ソフトテニス・陸上・放送は全国大会に出場した。剣道 女子団体全国3位。放送 NHK杯全国準優勝。
	○くれき野祭の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・本校に合った独自のスタイルを創り出すことができたか。 ・生徒の力で実行することができたか。 	B	本部役員は、かなり自分たちの力で企画・実行できるようになってきた。話し合いを持ち、自分を表現する場面も見られた。役員だけでなく、多くの生徒が輪に加わり参加できるようにしていきたい。
地域との連携	○公開授業・学校説明会の充実と社会人聴講生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業をさらに推進するとともに、充実した学校説明会を行ったか。 ・地域や社会に開かれた学校作りを進めるとともに、社会人の学習機会拡大を企図した講座を設定し、生涯学習の場を提供できたか。 	B	振興会総会や保護者懇談会に合わせて、公開授業を行った。社会人聴講生を受け入れる講座も例年通り開講した。
組織の運営	○単位制の一層の充実	・「内規集」および「定時制ハンドブック」を全面的に見直すとともに、有効な活用ができたか。	A	新体制以降4年を契機に、生徒の実情把握をもとに、内規の全面的検討に着手し、幾つかの改正を実施した。
	○校務分掌の検討	・仕事の分担は適正だったか。意見を総括する中で、協力体制を確立できたか。	B	パートの人数バランスに配慮し、学校全体の組織見直しに取り組んだ。

研 修	○カウンセリング研修	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒などへの共通理解を持つことができたか。 ・上記生徒へ適切に対応するための研修ができたか。 	B	<p>生徒への理解を深める情報交換の機会を持つよう努めた。</p> <p>7月(夏季休業中)及び12月(年末)に特別支援教育に関する職員研修会を実施した。</p>
	○授業法の研修	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する研修の必要性を共有し、機会を設定したか。 ・校内授業公開を実施し、学習指導の研究に活用できたか。 	B	<p>例年通り校内授業公を実施し、職員同士が互いの授業を参観し合う機会を設けた。</p> <p>新課程に謳われている「学び直し」について研究を進めたい。</p>

IV 平成22年度 学校関係者評価(学校評議員用)

学校評議員の皆様から、懇談会での職員との意見交換を行った上で、自己評価の結果について評価していただきました。6人の評議員の皆様からは、自己評価が【適切ならば1、ほぼ適切ならば2、やや不適切ならば3、不適切ならば4】と記入いただきました。

評価の観点(到達目標)	自己評価の適切さ						改善策に対するご意見
	2	1	1	1	1	1	
①生徒一人ひとりの資質・能力の伸長	2	1	1	1	1	1	キャリア教育、国語力の向上はいずれも重要な課題だと思われまます。
②他を思いやる豊かな心の育成	1	1	1	1	1	1	
③社会力の育成	3	1	1	1	1	1	人間形成、社会対応力、生きていく力を強みに鍛えてください。
④基礎学力定着のための授業改善	1	1	1	1	1	1	
⑤教育課程の工夫・改善	2	1	1	1	1	1	
⑥特別支援教育の充実	1	1	1	1	1	1	手厚い体制をとっておられ、かなり努力している印象です。 筑摩高校の重要な使命の一つであるので、研修を積み重ねた充実を望みます。
<p>その他本校午前部午後部の教育活動について、ご意見をご記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑摩で不登校が改善される実績が向上する事を切に願っております。 ・授業以外にも、文化祭や部活動が盛んであり、素晴らしい成果を残されている点は、大きく評価できる点だと思います。今日は実際の生徒さんの表情を拝見できて好印象でした。 ・今後カリキュラムが複雑になっていくと思うので先生方に頑張ってほしい。 ・ここでしっかりやり直そうとする子供たちを、守れる体制づくりにご苦労なさっている事がありがたいです。将来へ向けて生きる力をつけていただくようにお願いします。 							